

---

◇長谷川 幸 子 議 員

○議長（森元淑雄） 次に、14番、長谷川幸子議員の一般質問を許可いたします。長谷川幸子議員は登壇願います。

（14番 長谷川幸子議員 登壇）

○14番（長谷川幸子） 通告に従いまして、一般質問させていただきます。

防犯機器設置への支援を。

警察庁の犯罪情勢統計によると、2024年1年間の刑法犯罪認知件数は73万7,679件で、3年連続の増加となりました。総数に占める割合が大きい窃盗犯は50万1,507件、社会問題化している銅線ケーブル窃盗などの金属窃盗は2万701件で、統計を取り始めた2020年の4倍近くに上っています。殺人や強盗、不同意性交といった重要犯罪は前年比18.1%増の1万4,614件でした。匿名流動型犯罪グループが関与するSNSを通じた投資詐欺やロマンス詐欺も急増しています。

窃盗などを含む財産犯の被害額は4,021億円で、1989年以降で刑法犯罪認知件数が最も高かった2002年を上回るなど、犯罪の悪質化が懸念されています。闇バイトに起因した凶悪な強盗事件などが相次ぎ、住民生活を守る防犯対策に関心が高まっています。

政府は緊急対策を取りまとめ、SNSの監視強化や新たな捜査手法の導入を進めています。

東京都は、闇バイトなどによる犯罪の対策として、2025年度予算案に個人住宅への防犯カメラ設置などを支援する補助事業を盛り込みました。対象となるものは、防犯カメラやカメラつきインターホン、窓ガラス用防犯フィルムなどで、1世帯当たり2万円を上限に購入費の半額を補助します。

2024年の4月から5月にかけて、山間部の一軒家を狙った連続強盗事件が、栃木県、長野県、群馬県、福島県で発生しました。このうち福島県南会津町での事件は、女性が手足をテープで縛られ、刃物を突きつけられて、現金2万円とネックレスが奪われました。犯人逮捕のきっかけは、現場近くの防犯カメラに映った車でした。闇バイト強盗は、非常に手荒で危険な手口で行われています。どの地域や家庭においても狙われる可能性はゼロではないため、日頃から防犯対策を行い、被害に遭わないようにする必要があると思います。

美郷町でも、町民の命と財産を守るために何らかの対策が必要ではないでしょうか。

そこで伺います。美郷町では各小学校への防犯カメラの設置や町内に防犯灯が設置されていますが、それ以外の防犯対策はどのようなになっているのでしょうか。個人の防犯機器設置へ支援を行うお考えはないのでしょうか。町長のご所見をお聞かせください。

○議長（森元淑雄） 答弁を求めます。町長は登壇願います。

(町長 松田知己 登壇)

○町長（松田知己） ただいまのご質問にお答えいたします。

まず、町内の防犯対策の状況についてですが、町内幼稚園、保育園、つまり認定こども園、そして小中学校のほか役場庁舎や公民館、学友館などで計100台の防犯カメラを設置しており、そのうち23台が敷地外も撮影できる状況となっております。もし不審者等が出現した場合は、大仙警察署に情報提供できる体制を取っているところです。

次に、防犯灯についてですが、通学路を中心に2,877基設置しており、夜間における町民の安全及び犯罪被害の未然防止を図っております。

また、交通指導隊並びに防犯指導隊によるパトロールも年間約240回行い、町内巡回して交通安全や防犯の意識喚起に努めているほか、小学校に入学した小学1年生への防犯ブザーの配付に加え、美郷町防犯協会からは小学4年生にも防犯ブザーが配られており、児童の登下校時の安全と防犯意識の向上に努めているところです。

さらに、町と町防犯協会では、美郷フェスタや、昨年12月の町のお知らせ版において特殊詐欺防止のチラシも配布し、詐欺被害防止に関しても意識喚起を図っているところです。

こうした取組を継続しながら、新たな取組として今年4月から運用を開始するテレビ回覧板や町ホームページを通じ、実際に発生した被害情報を迅速に発信することで、町民の注意喚起に努めてまいりたいと存じます。

続いて、個人が行う防犯機器設置への支援についてですが、不審者の侵入を防ぐ目的で設置されるテレビドアホンや防犯カメラは、犯罪抑止力として効果が期待できるものと認識しておりますが、現時点では購入に対する支援制度はありません。

しかし、国では重点支援地方交付金により、個人が設置する防犯カメラ等への支援にも活用できる旨示しているため、町に交付された交付金の執行状況を踏まえ、今後、当該交付金に余裕が見込める状況になれば、当該交付金を活用した支援制度を新たに構築していくよう検討してまいりたいと存じます。

以上です。

○議長（森元淑雄） 再質問ありますか。（「はい」の声あり）長谷川幸子議員の再質問を許可いたします。

○14番（長谷川幸子） 防犯カメラの設置台数を今教えていただきましたが、これから増やす計画はおありでしょうか。

○議長（森元淑雄） 答弁を求めます。町長は自席でお願いします。

○町長（松田知己） 防犯カメラについては、施設の状況等、また取り巻く環境の変化によって、増設については可能性は否定しません。

以上です。

○議長（森元淑雄） 再々質問ありますか。（「ありません」の声あり）それでは、次の質問に移ってください。

○14番（長谷川幸子） 続きまして、おむつの真空パック機と自動販売機の設置をということで質問させていただきます。

町では、子供の健やかな成長と親子の触れ合いの機会を確保するため、雨や雪の降る日でも元気に遊べる屋内施設、子ども子育て支援拠点施設の整備を令和8年度オープンを目指して進めています。多くの町民の方々が楽しみにしていると思われま

す。赤ちゃん連れの方が気軽に施設を利用できるように、おむつ替え専用スペースに、おむつ真空パック機とおむつ自動販売機を設置してはいかがでしょうか。真空パック機は、使用済みおむつを投入すると自動的にラミネートで圧縮、密封されます。細菌や臭い漏れを防ぎ、使用済みおむつを持ち歩く負担が減ります。おむつの自動販売機には、お尻ふきや液体ミルクなども販売されています。かさばるおむつでの荷物が多くなることや足りなくなってしまったときなどの困り事を解決できると思います。

多くの子育て世帯の方々が、子育て支援拠点を楽しく利用するためのおむつの真空パック機と自動販売機の設置について、町長のお考えをお聞かせください。

○議長（森元淑雄） 答弁を求めます。町長は登壇願います。

（町長 松田知己 登壇）

○町長（松田知己） ただいまのご質問にお答えいたします。

子ども子育て支援拠点施設については、現在、令和7年度の工事着工に向け、実施設計業務を行っております。施設の仕様などについては、県内外の同様施設等の事例も参考にしつつ、子育て支援施設設置検討委員会でご検討いただき、その中で利用者の利便性への配慮など様々なご意見をいただいているところです。

こうした経緯の中で、備品についてもいろいろと検討を重ねてきており、必要備品については基本的に利便性や衛生面等に配慮するとともに、設置スペースやランニングコストなども考慮しながら準備していくこととしております。

ご質問の、おむつの真空パック機や、おむつの自動販売機についてですが、授乳室において、おむつ替えや使用済みおむつの処分が迅速かつ衛生的に対応できるよう、授乳室におむつの真空パッ

ク機を配備することとしているほか、施設内にはおむつ自動販売機も設置することとしており、対応する予定であります。

以上です。

○議長（森元淑雄） 再質問ありますか。（「ありません」の声あり）

これで14番、長谷川幸子議員の一般質問を終わります。